

状況・推移をあらわす時間節「ナカ」の含意性 ——事態情報の導入機能を中心に——

田中 寛 (大東文化大学外国語学部)

A Study of Time-Clause “naka” indicating Circumstances and Progress : Centering on the Function of Introduction for Situational Information

Hiroshi TANAKA

要約

「ナカ」節には時間節の中でも具体的な範疇、範囲をあらわすものから、抽象度の高いもの状況・経緯までさまざまな用法が観察される。本稿では節内部の特徴とともに、後文主文における結果の事態生起の意味的特徴について考察する。また、接続詞相当句としての「そうした中(で)」「そんな中(で)」「その中で」といった用法についても記述する。さらに「中であって」と「にあって」との連関性、連体節をとともう「今日」、「今」「現在」といった情報提示の類似表現、「につれて」などの漸進性をあらわす表現との隣接性についても述べる。総じて、これらの表現形式が事態情報の導入機能的な特徴を有することを主張する。

キーワード：時間節 状況・推移 事態情報把握 導入機能 俯瞰的観察

目次

1. はじめに
2. その他の時間節の態様：補遺
3. 状況・推移を表す時間節「ナカ」の諸相
4. ナカ節のあらわす意味の多面性
5. ナカ節に前接する動詞成分の特徴
6. ナカ節に前節にする文法カテゴリについて
7. 「ソウシタナカ(デ)」「コンナナカ」などにみる「ナカ」の可展的機能
8. 「～ナカニアッテ」という提示成分について
9. ナカ節を代行する「今」「現在」「今日」の接続辞的機能
10. おわりに

1. はじめに

複文は事態間のさまざまな意味関係を提示し、その限界性、非限界性のなかで行われる、あるいは生じる結果事態・事象を説明する上で、重要な意味機能を呈する。なかでも時間節は日本語教育においても「テから」「ル前に」「タ後で」など、他の複文にくらべて提出が早期に行われるのも、時間認識が情報整理のうえで重要な位置づけを示している。

当該対象となる事態説明に関しては、ただ単に対象そのこと自体についてふれるだけではなく、その後の事態発展、展開にかかわる情報をどのように発信していくかについても当然重点が置かれなければならない。複文構文のなかで時間節にかかわる類型的研究は、その意味でも重要な課題を内包しているといえよう。

本題に入る前に時間節の主要形式と分類を確認してみたい。日本語記述文法研究会(2010)では(i)同時を表す時間節、(ii)期間を表す時間節、(iii)前後関係を表す時間節、(iv)状況を表す時間節、の四分類を提示している。(i)はさらに三種類に分類される。以下はその主な形式である。(a., b., などは引用者が便宜的につけたもの。下線部も引用者による補足)

(i) 同時を表す時間節

a. 同時点を表す形式：

とき(ときに、ときは、ときには、ときから)、折(折に、折は、折には)、際(際に、際は、際には)、ころ(ころに、ころは、ころには)、時分(時分に、時分は、時分には)、前後(前後に、前後は、前後には)、瞬間(瞬間に、瞬間は、瞬間には)、…

b. 反復を表す形式：

たび(たびに)、ごとに、につけ、…

c. 同時進行・同時変化を表す形式：

と同時に、とともに、につれ(につれて)、にしたがい(にしたがって)、など

(ii) 期間を表す時間節：

あいだ(あいだに、あいだは)、うち(うちに、うちは)、最中(最中に、最中は)、間に、隙に、隙をぬって、合間に、合間をぬって、など

(iii) 前後関係を表す時間節：

a. 「まえ」類の形式：

まえ(まえに、まえは、まえには)、まで(までに、までは、までには)、矢先に、直前に、寸前に、間際に、を前に(を前にして)、を目前に(を目前にして)、をひかえ(をひかえて)、に先立ち(に先立って)、など

b. 「あと」類の形式：

あと(あとで、あとに、あとは、あとから)、てから(てからは)、て以来(て以来は)、て以降(て以降は)、直後(直後に)、とたん(とたんに)、なり、かと思うと(かと思ったら)、次第、

やいなや（や、かしないかのうちに）、が早いか、早々、そばから、はしから、矢先（矢先に）、など

(iv) 状況を表す時間節：

ところ（ところを、ところが、ところへ、ところに、ところで）、なか（なかを、なかで）、うえ（うえで）、など

(iii) の「そばから」は (1a), (1b) のように、単に時間の前後を表すというよりも、(i) 「反復」を表す用法に分類されるべきであろう。前接する動詞はル形のほうが現在進行的で恒常的、タ形はその動作行為の完了を強調する傾向がある。

- (1) a. 餃子を作るそばから、食べていくので作るのに忙しい。
b. 部屋を掃除したそばから、子どもが散らかしていく。

これまでトキ節をはじめとして、個別の文法事象について実に多くの考察がなされてきたが、なかにはモダリティの要素をふくむものなど、また原因・理由節とも隣接、重複するものがあり、さまざまな特徴が観察される。

2. その他の時間節の態様

上述の一覧は時間節の広範にわたる形式を体系化したものだが、より詳しく見ればさらに補充すべき項目が考えられる。具体的には場面のうち、特化した局面をあらわすものをより細密に観察記述する必要がある。このほか形態的には動詞のテ形をもちいたもの（「に続いて」など）、〈XをYに〉の形態でしめされるもの（「を最後に」など）、などさまざまなものが含まれる。以下、前節一覧の他にやや未整理ではあるが、その概要を以下に示す（一部重複も含む）。

2.1 前後関係

以前（以前は、以前に、以前には）、に先んじて、に先駆けて、にあたって、に際して、にのぞんで、に続いて、に次いで、を待って、以後、タうえで、…

2.2 瞬間、同時性をあらわす形式

が早いか、や否や、かないかのうちに、ひょうしに、はずみに、(か) と思うと、と思いきや、とみるや、かたがた、ついでに、がてら、…

2.3 焦点化した時点

折（折に、折は）、折も折、時点（で）、帰り（に）、途中、帰途、過程で、ルうえで、にあって、機会に、場合（場合に、場合は、場合には）、節（は）、…

2.4 状況、反復状態

つど、そばから、はしから、につけ、ては、…

2.5 序列、順序、時点

たが最後、をもって、段になって、(いざ)段になると、段階で、タうえで、時点(で)、タとこ
ろで、…

2.6 契機、起点

を皮切りに(して)、を振り出しに(して)、を境に(して)、を機会に、を機に、を最後に、をし
おに、をピークに、をめどに、にともなって、…

2.7 最終帰結・結末

あげく、結果、末(末に)、果て(に)、暁に(暁は、暁には)、夕が最後、…

2.8 選択依拠・目的条件

次第、ルうえで、…

2.9 期間、到達・経緯

から~にかけて、から~にわたって、に至って、に及んで、期間中、最中、…

2.10 比例関係

うちに、れば~ほど、れば~ぶん、れば~だけ、につれて(につれ)、にしたがって(にしたが
い)、…

2.11 大局的時点

当時、当座、当節、当初、時代、…

以上、大雑把な分類で補足したが、田中(2010)では特に同時点をあらわす形式のうち、瞬間を
表す時間節を別途設けて意味記述を試みている。また「につれて」などは〈漸進性・相関を表す後
置詞〉と意義づけている。「あと」類に入るとされる「結果、末(末に)、挙句(挙句に、挙句の
果てに)」などを結果誘導節と分類したのがある。さらに、「をきっかけに、をふりだしに、をき
りくちに、を境に、を潮に、暁に(暁は、暁には)、をピークに、をめどに、を前提に」などの〈契
機(きっかけ)〉も何らかの時間的な要素を含意しており、時間節に含まれると同時に、原因理由と
も交差しているとみてよい。そもそも原因理由と帰結の関係は時間の推移、前後関係を下敷きに
していることも考えられる。附帯状況をあらわすナガラ、ツツ節も同時進行をあらわす時間節とも重
なりを持つ。さらに、動詞テ形を用いた「を待って」「について」「に(引き)続いて、に(引き)
続き」なども、時間軸を考えれば「あと」類の周辺にあるとみてよいだろう。

- (2) a. 天候が晴れるのを待って、登山隊は出発したことにした。(；晴れたあとで)
b. ゼロ戦隊が発艦したのについて、艦爆隊も出撃した。(；発艦してから)
c. 会長の挨拶に続いて、専務理事の会計説明があった。(；挨拶の後に/次に)

また「処理が終了するのをお待ちください」と言う表示も「処理が終了するまでお待ちください」
のように通常は時間の経過を認識している。時間関係は事態認識の不可欠な構成因子である。

トキ節もバアイ節と同じように「万が一、地震が起こったときは／場合は」のように条件節としてもあらわれうることから、分類には一部の重複も含む。「ママ、キリ、ナリ」なども時間節とかわる機能を有している。

このように考えると、時間節の抱含する領域は広範にわたり、これまでの個々の記述研究のより進展と同時に、体系的な記述が今後求められる。時間表現は接続形式の多様さによって、さらにテンス・アスペクト等の文法カテゴリにも影響されながら、さまざまな伝達的な要素を的確に果たすことが可能になる。個々の形式については複合辞の記述研究のほか、前接のテンスをはじめとする形態的な観察をはじめ、詳細な考察もあれば空白の項目もあって一様ではない。使用に当たってはフォーマルな場面や、書面語的なものも分布する。本稿で扱う「ナカ」は位置詞「トコロ」的性格を有し¹⁾、時間節の中でどのような意義づけとなるかが考察の対象となる。また、後半では時間名詞を被修飾名詞として接続辞のように用いられる「今」、「現在」、「今日」、「この頃」などについても記述を試みる。

3. 状況・推移を表す時間節「ナカ」の諸相

事態の出現をどのような言語表現の形式であらわし、伝達するのかといった意識、認識は文法研究の中核となるものだが、本稿で考察する「ナカ」は前掲 (iv)「状況を表す時間節」および 2.9「期間、到達・経緯」に分類されるが、例えば、次のような一定の文脈にあらわれるものである。

- (3) ゴーン被告は 25 日午後 10 時 22 分頃、150 人以上の報道陣が待ち構える中、東京拘置所内の駐車場側出入り口に現れた。(読賣新聞 20194025)
- (4) 日本の首相がイランの最高指導者と会談するのは初めてで、核合意を巡って米国と対立する中、緊張緩和に向けた役割を果たせるかが焦点となる。(読賣新聞 20190612)
- (5) 英国は第 5 世代 (5G) 移动通信システムの採用を巡って、ファーウェイ製品を認めるかどうか詰めの議論をしている。欧州連合 (EU) 離脱の混乱で英国への投資を見直す企業が多い中、経済への貢献をアピールし採用につなげる狙いとみられる。

(共同通信社 20190504 1230)

こうした「ナカ」節の使用意図には、ある種の傾向があるように思われる。そのひとつがいわゆる〈現場性〉、そしてそれにとまなう主題性の提示であろう。「ナカ」に前接する動詞は、一定量の時間を有する限界性が含意され、「待ち構える」「停滞する」もその例に漏れない。形容詞も時間を内包する状態性をあらわす。こうした「ナカ」はおもに報道文に見られ、口語文では状況説明のほかは、頻用されない。また当該時点のトピック、話題を提示する。「少子高齢化が進む中」などのように、ある種の状況提示における定型句的な言い回しも見られ、それらが情報展開の契機成分として有効に働いていることは明らかである。多くが「少子高齢化が進んでいるが」のような前置

き成分にも相当する。

こうした「ナカ」については従来、断片的ながら注目されてきたものの、まとまった考察としては問題を残しているように思われる。ひとつはなぜ「ナカ」形式が用いられるのか、その意図の考察である。さらに節内の特徴、つまり動詞であればアスペクト、テンスにかかわる問題である。現実的には「テイル」状況であるにもかかわらず、「ルナカ」とする臨場性、もしくは進行中の現場を切り取った緊張感のようなものがうかがわれるところにナカ節の特徴がある。同時に、そこには観察者主体の事態把握の主意性も投影されることになる。加えて、後続文にあらわれる文の規定性についても言及が必要であろう。

町田(2010: 216-219)は、「不況が続く中、効果的な対策が望まれる」という例を挙げ、「理由を間接的に推測させる」という「ナカ」の機能に注目している。同時に、間接的に提示することによって曖昧な、かつ丁寧度をあげるという機能も観察されるとする。時間的な同時性を「ナカ」であらわすことによって、話し手も聞き手も共有の場にあることを意識化させる働きも感じられる。一種の、いささか大袈裟に言えば、運命共同体的な発想であるともいえよう。このように、ナカ節は、さまざまな状況を内在化させ、個別的事態の出現に用いられる一方で、進行しつつあるかなり大きなテーマ的状况を提示する特徴をもつ。以下では、実例によってナカ節に前接する動詞の意味のあり方などにも注目して、その意図するところをみていくことにする。

4. ナカ節のあらわす意味の多面性

そもそも位置詞という機能範疇を有する「ナカ」は、範囲をあらわす意味がその基層の意味として認められる。すなわち、最上級の用法にともなう範囲の提示である。

- (6) a. 果物の中で (は)、何が一番好きですか。
 b. クラスの中で (は)、リーさんが一番背が高いです。
 c. 会社の中で (は)、木村さんが一番ハンサムです。

しばしば「中」を省略して「果物では」「クラスでは」「会社では」のようにも表される。提題の「ハ」を略した言い方も同じ意味をあらわす。こうした状況説明は、いわば趣向や好み、特徴を提示するだけであるが、「ナカ」が連体修飾構造に接続する名詞が省略されることもある。

- (7) 今迄旅行した(国の)中で (は)、どこが一番よかったですか。
 : 今迄旅行した国で (は)、どこが一番よかったですか。

のような例では括弧内の情報が含意されており、名詞はさまざまな範囲、対象が可能である。

- (8) 見学した（工場の）中で、読んだ（本の）中で、会った（人の）中で、見た（映画の）中で、食べた（料理の）中で、習った（外国語の）中で、…
- (9) 32歳のジョコビッチは「おそらく僕がこれまで経験した中で、精神的に最も厳しい試合だった」と話した。（朝日新聞 20190822）

もうひとつは、「最中」を意味する用法である。接尾辞としての「ナカ」は「録音中」「失恋中」「営業中」「就活中」「手術中」など広範囲に用いられる。

- (10) ダイビング中、約 15 メートル潜った海中で足がつり、自力で浮上しようとしたが、その後、海上でうつぶせで浮いているのが見つかった。（読賣新聞 20190824）
- (11) 教員と生徒で BBQ をしている最中に、教員が怒鳴りました」（週刊女性 20190826）

本稿であつかう「ナカ」はこうした用法とも隣接しながら、複文を展開する意味機能において、特徴的な役割を果たしている。その重要な一つが、事態説明の導入的機能というものである。当該議論になる現象、事態を、前触লের的に示して、いわば注目的な表示となっている。(10)では「ダイビング中」を「ダイビングしている中」とはいえないし、「深刻化するなか」を「深刻化中」ともいえない。いずれも別の事象の捉え方であるといえよう。複文構文として「ナカ」構文はより複雑な様相をしめしており、単に範囲のみならず、前文と後文とでさまざまな意味関係を構成する。

日本語文法記述研究会（2008）では「なか」の形式的特徴として、「ナカ」は動詞、イ形容詞、ナ形容詞、状況を表す名詞にも後接する。動詞の場合、ル形、テイル形が原則で、名詞の場合は〈Nのなか〉となる。また「ナカ」に格助詞「ヲ」「デ」がつくことも多い。一方、「ナカニ」「ナカへ」となると、格助詞は移動動詞のへ格、ニ格の役割を果たしている。後続動詞は「入る」などにかざられる。さらに、主節は平叙文が多く、疑問や評価のモダリティはあらわれるが、そのほかの文のタイプはあらわれない。ややフォーマルな文脈、場面では「ナカニアッテ」のように「ニアッテ」を補足するケースも多いとしているが、なお検討の余地があるように思われる。最近では佐伯（2013）がナカ節の多様な機能を考察しているが、その生成のプロセスについては不十分さがいぬめない。より多くの用例の分析にもとづく検証が必要であろう。

5. ナカ節に前接する動詞成分の特徴

ここではナカ節の特徴をみるうえで、前接動詞の意味のあり方に注目したい。たとえば、「激しさを増す中」のように「ナカ」に前接する動詞は「食べる」「働く」などの具体的な行為動詞ではなく、客観的な状況をあらわす動詞が主である。以下では用例に見る傾向、すなわち前接する動詞のカテゴリカルな意味に注目しながらみていくことにする。同時に後文に展開される事態の記述的特徴についても瞥見する。

A：〈迫る〉〈近づく〉動詞が前接するナカ節

ある一定量の時間量を前提として継続性を意図する動詞があらわれる。具体的には「迫る」「近づく」「増す」「続く」などで、ある種の方向性を有する。

- (12) 仏ルノーは、43.4%を出資する日産自動車の株主総会が二週間後に迫る中、日産側の猛反発を承知で新たな揺さぶりに出た。(読賣新聞 2019611)
- (13) 仁井田さんは「東京五輪などの開催を控える中、車掌一人一人がカタカナ英語じゃなくてきれいな発音を身につけるようにし、外国人の方の立場に立った案内をしていきたい」と話している。(産経新聞 20190619)
- (14) 「働かない」「結婚しない」「家から出ない」人が増加する中、こうした子供を抱える親は日々「この先自分たちがいなくなったらこの子はどうやって生活するのか」と思い悩む。
(NEW ポスト 20190613 0700)

B：〈続く〉〈相次ぐ〉〈たどる〉などの動詞類が前接するナカ節

「続く」「相次ぐ」も連鎖の現状分析にとって重要な観察の視点となる。大きな問題提起の前提としての効果を有する。

- (15) ベネズエラでは財政危機が続く中、独裁色を強める反米左翼マドゥロ政権と野党連合出身のグアイド国会議長が対立。マドゥロ氏退陣を求める米国は経済制裁を強化している。
(共同通信社 20190608 0928)
- (16) 子どもが巻き込まれる事件・事故が相次ぐなか、報道の在り方に新しい視線があらわれている。(YAHOOJAPAN 20190604 0725)
- (17) 日本政府は28日、輸出手続きで優遇対象とする「ホワイト国」から韓国を除外した。日本企業にとっての影響は限定的だが、韓国への打撃は大きいとの見方もある。日韓関係が悪化の一途をたどる中、観光産業などに飛び火している。(ブルームバーグ 20190828 0600)
- (18) 中国が民間の技術力を活用して国防力を強化する「軍民融合」を推進する中、経済産業省が安全保障的な視点から技術・産業戦略を推進する司令塔組織を新設したことが、ダイヤモンド編集部の取材で27日までにわかった。(DIAMOND オンライン 20190828 0600)

C：〈強まる〉〈高まる〉〈深まる〉などの動詞類が前接するナカ節

形容詞「強い」「高い」によって形容される事態の変化、変動もまたナカ節にみられる動詞の中で頻度が高いものである。現状への強い関心、注目標示として機能する。

- (19) 英 EU 離脱が無秩序となり貿易などに混乱が生じる恐れが高まる中、多くの自動車メーカーが英国での事業計画を見直している。(共同通信社 20190904 0800)

- (20) 11日発足の安倍再改造内閣などの顔ぶれについて、韓国メディアは「反韓内閣」「極右起用」と批判的に報じた。日本の輸出管理強化や韓国の軍事情報包括保護協定（GSOMIA）破棄などで日韓対立が深まる中、新内閣がさらなる対韓強硬策を取りかねないと警戒している。（時事通信社 20190911 1819）

動詞「悪化する」「行き詰まる」もまた、事態進行のさまをあらわす。

- (21) 軍事情報包括保護協定（GSOMIA）の破棄通告などで対日関係が悪化する中、韓国は東南アジア各国との関係強化に動いている。（時事通信社 20190903 0807）
- (22) 安倍晋三首相は4日、ロシア極東ウラジオストクに向けて政府専用機で羽田空港を出発した。（略）北方領土問題を含む平和条約締結交渉が行き詰まる中、トップ同士の信頼関係を生かし、交渉を前進させたい考えだ。（共同通信社 20190904 1434）

「一化する中」は「一化に向かっており、…」といった変化の只中を表す。「深刻化する中」、「悪化する中」「激化する中」などの例が多く見られる。

- (23) 日韓の対立が深刻化するなか、国内を訪れる韓国人観光客が九州などを中心に急減している。回復の兆しをつかめない状況に関係者は頭を抱える。（朝日新聞 20190824）

(24) 「厳格化から」、(25) 「カジュアル化で」のようにナカ節を代行する言い方もある。それぞれ、「厳格化が進む中、厳格化する中」、「カジュアル化が進む中、カジュアル化する中」のように言い換えることができる。

- (24) 2020年度の大学入試改革による影響はどうなるのか。そんな不透明感や私立大の定員の厳格化から、大学付属校の人気が続いている。（AERA dot. 20190608 1700）
- (25) 企業や官公庁向けの制服メーカー、サンリット産業（大阪市中央区）が自己破産申請の準備に入ったことが26日、分かった。近年進む職場のカジュアル化で制服需要が減り、業績が悪化した。（共同通信社 20190826 1736）

D：〈変化〉に類する動詞が前接するナカ節

ここでは「転換する」、「変化する」、「過半数を割る」、「緩和する」など広く変化に類する動詞がナカに前接するケースをみってみる。

- (26) 台湾では、輸出主導型の経済に転換する中で、産業構造が製造業中心へと変化し、特に「3K（きつい・汚い・危険）職種」において労働力が不足するようになり、…

(産経デジタル 20190617 2034)

- (27) このように中国をめぐる国際環境が大きく変化する中で、相手の意図に対する相互不信は依然として根深い。根気強い対話を通じ、あるいは実際の行動の積み重ねを通じて徐々に相互不信を解消させていくしか方法はない。(President online 20190615 1114)
- (28) 欧州議会選で、「緑の党」系党派は定数751のうち75議席を獲得(11日現在)、改選前の52議席から大きく勢力を伸ばした。左右の中道勢力が初めて過半数を割るなか、EUの気候変動対策や環境規制で一定の影響力を及ぼしそうだ。(毎日新聞 20190615 1924)
- (29) 南北が軍事分野の合意を交わし、緊張が緩和する中、漁船が韓国海軍や海洋警察、地上のレーダーという三重の警戒網を突破していた実態に批判が集まっている。

(産経デジタル 20190619 1714)

E:〈迫る〉〈向かう〉などの動詞が前接するナカ節

ここでは「進む」「増す」「迫る」「向かう」といった接近、増減を意図する動詞を概観する。ある一定方向への変化、前進、進展を意味する。

- (30) (日朝会談「できる限り協力・支援」) 孔氏は中国政府の朝鮮半島事務特別代表を務めていた。この発言は、日中関係の改善が進む中、北朝鮮の拉致問題でも連携が可能という立場を示したものだ。(読売新聞 20190619)
- (31) 拳銃奪取などの目的で交番や駐在所が襲撃される事件が後を絶たない。警察当局が装備や勤務体制の見直しなど安全対策を進める中、凶行は再び起きた。
(時事通信社 20190616 1620)
- (32) 暑さが厳しさを増すなか、多くの方がたが肉体的にも、精神的にも困難な避難生活を余儀なくされている。(時事通信社 20190616 1215)
- (33) 高齢化の進行で「多死社会」が迫る中、平穏な最期をどう描き、それを周囲はどう支援するべきか。計画の頓挫は大きな課題を浮き彫りにした。(神戸新聞 20190608)

F:〈事態生起〉を意味する動詞が前接するナカ節

ここでは「超える」「照りつける」などの気象条件、「生まれる」など、総じて事態の生起するさまをあらわす動詞が前接するケースである。

- (34) 午前から気温が30度を超えるなか、全焼した第1スタジオ近くに設置された献花台には、犠牲者への冥福を祈るとともに、京アニの再建を願う人たちが訪れた。

(産経新聞 200190801 1229)

- (35) 雨がやんで厳しい日差しが照りつける中、さらなる被害は防がなければならない。

(神戸新聞 20190608)

- (36) 「子供部屋おじさん」という言葉も生まれるなか、社会人になっても実家暮らしを続ける人は少なくない。(マネーポスト 2019.6.11 16:40 発信) (共同通信 20190715 1745)

G：その他の〈事態推移〉をあらわす動詞が前接するナカ節

以上あげた動詞の他に、個別的というべき問題の進行を掲揚する動詞がみられる。動詞「抱える」は問題の渦中にあることを示す。「～が見守る中」などは使用頻度が高い動詞である。

- (37) トランプ政権はいずれも同盟国である日韓の対立への関与に消極的だったが、北朝鮮や中国の問題を抱える中、さらなる関係悪化を避けるため仲介努力に乗り出している。
(共同通信社 20190803 1947)
- (38) 広島県と岡山県を中心に計約1万人が避難生活を送る中、災害関連死など被害の広がりを防ぐ対策が急務になっている。(朝日新聞 20180711)

状況をあらわす節は事態の報告導入にあらわれ、とりたてて会話では使用されない向きがあるが、実際には次のような例も見かける。

- (39) 全米大学選手権ではサニブラウン・ハキーム（フロリダ大）が日本新記録の9秒97をマーク。ライバルの快走を受け、山県は「出したな～という感じ。世界を見据える中で、自分も超えていかないといけない記録」と闘志を燃やした。
(Y!ニュース 20190609 1228)

6. ナカ節に前接する文法カテゴリについて

次に文法カテゴリーによる特徴からナカ節の表現意図とその効果についてみていこう。

H：〈ナイ〉が前接するナカ節

否定接続では例外的な状況の継続する過程が述べられる。非常に困難な状況の提示であり、後文にはそれに対処、対応する現状分析が示されることになる。

- (40) 徴用工問題が進展しない中、日本が事実上の対抗措置として輸出規制に踏み切って以降、外相による直接会談は初めて。米国は仲介に意欲を示しているが、日韓の歩み寄りには困難とみられる。(時事通信社 201908011402)
- (41) 彼のデフェンスがあった。自分のテニスが100点じゃない中、その差が出た。デフェンスされて凡ミスしてというパターンが多くもったいない。(Y!ニュース 20190831 0727)
- (42) 岩崎容疑者の自死で、犯行動機が判然としない中、容疑者の生前のおぼろげな生活実態か

ら「ひきこもり」の傾向にあり、社会的孤立・孤独状態であったことが明らかになりつつある。(President online 20190619 1515)

I: 〈テイル〉〈テイク〉が前接するナカ節

「ナカ」に前接する動詞は基本形が大勢をしめるが、テイル形も多少ではあるが、あらわれる。臨場感をきわだたせ、時々刻々の状況を伝える。

- (43) 夏の参院選に合わせた衆院解散に関しては「冷静な判断をしなければいけない。G20 サミットを開催する責任を負っている中で私の頭の片隅にもない」と改めて否定した。

(共同通信社 20190622 1054)

- (44) 平成28年7月には、国から委託を受けた日本戦没者遺骨収集推進協会が設立されたが、戦後70年以上が経過している中で飛躍的に成果があがっているとはいえない。

(産経デジタル 20190519 1837)

- (45) 高齢化社会が進んで狙われる対象は広がっていく中、被害を少しでも止めなければならない。(朝日新聞 20190422)

- (46) 「特効薬」の効き目は、日韓関係が政治や貿易など多方面で悪化していく中においても、国防部と国家情報院が GSOMIA の意義を評価し続け、破棄には慎重であるべきとの姿勢に終始していたことから明らかであろう。(毎日新聞 20190826)

J: 〈ツツアル〉が前接するナカ節

先に前接動詞は一定の継続性を含意すると述べたが、一定の間隔で漸進的な様相を明示する場合は「ツツアル」が採用される。「いままさに」といった現状分析が先鋭化したものである。後文にはこれに引きずられる形で感情の表出がみられる。

- (47) 韓国はどうか。韓国は友好国との関係を改善するどころか、伝統的な韓日米のトライアングル安保体制からも切り離されている。文在寅政権に対して日米が不信を表わすのも無理はない。だから韓米同盟が崩れつつある中、日米間の軍事協力は日増しに強固にならざるを得ない。(JBPRESS 20190428 1145)

- (48) 一帯一路は、中国の習近平国家主席が2013年に提唱しました。中国自身の経済成長が頭打ちになりつつある中、中国と欧州を結ぶ広大な地域に新たなフロンティア(領域)を求める構想です。(讀賣新聞 20190626)

K: 〈ナル〉表現が前接するナカ節

「激しくなる」「対象となる」など、「ナル」をともなうナカ節も変化の現在を意味する。

- (49) 中国のレアアース（希土類）輸出が5月に減少した。米国との貿易対立が激しくなる中で輸出規制の可能性が浮上、価格も上昇している。(BloombergNews 20190610 1616)
- (50) NTTの澤田純社長は6日、中国通信機器大手の華為技術（ファーウェイ）が米国の禁輸措置の対象となる中、日本の携帯電話各社が同社製の新型スマートフォンを発売することについて「顧客に迷惑を掛ける可能性が高い。同業者としておかしな取り組みではないか」と批判した。(共同通信社 20190806 1912)

L：受動態が前接するナカ節

前接動詞が受動態の場合、意外性が前面かするところから、「にもかかわらず」「ても」といった逆接的なニュアンスが看取される。ある種の抵抗を含む意志の存在が後文に明示されることが多い。

- (51) 上皇后美智子さまは、強い自分というものを持っている方だと思う。困難や不当なバッシングに耐え、大衆の好奇の目にさらされるなか、常に自制心を保たれてきた。
(プライムオンライン 20190801 1830)
- (52) 日本人初の快挙を成し遂げて海外からも注目される中、“R マドリードの久保”として初の公式戦はA代表の舞台となった。本気の南米勢を相手に、世界が認めた力を見せる。
(日刊スポーツ 20190617 1230)
- (53) 暑さやトイレ不足による避難所の衛生状態の悪化が懸念される中、国は支援を本格化した。(朝日新聞 20180711)
- (54) 本年度から中学校の道徳、来春から小学校の保健の教科書に「性の多様性」が初めて記載される中、正しい知識を学び、偏見のない世の中で子どもたちに育ててもらおうと、教職員らが模索を続けている。(西日本新聞 20190827)
- (55) トランプ氏によると、戦略上の要衝であるホルムズ海峡付近で起きた無人機撃墜への対応に迫られる中、米国は20日夜に3か所への攻撃を行う準備を整えたが、開始の「10分前」に大統領自らが攻撃を中止したという。(AFPBB News 20190622 0542)

M：〈形容詞〉〈名詞〉が前接するナカ節

以上は動詞成分が前接するケースを見てきたが、その他の品詞にもナカ節が後接する。名詞に後接する場合は「のナカ」となる。

- (56) 前市長への批判が多い中、僅差になったことは謙虚に受け止めたい。(讀賣新聞 20190611)
- (57) 犯罪情報を入手するのが難しい中、それぞれの県で模索が続いている。
(讀賣新聞 20190619)
- (58) 低金利で収益率をたかめるのが困難な中、利益を確保するために、業務の軽量化や適正化が一段と進むだろう。(讀賣新聞 20190521)

- (59) 意識はあるようで、会場からの拍手に、右手をあげてこたえたが、代表選出が濃厚な中、今後の状態に不安が残った。(デイリースポーツ 20190623)
- (60) 激しい雨の降る厳しい状況の中、前半16分にMF中島翔哉(25)の先制点を皮切りに、同26分にはMF南野拓実(24)が追加点。(日刊スポーツ 20190911 2326)
- (61) 「自由こそが香港の価値だ」とこえをからして訴える学生たち。30度を超す暑さの中、「子や孫の未来のために」と、つえについて参加したお年寄りもいた。(読賣新聞 20190626)

N:「ヨウトスルナカデ」と「トスルナカデ」

今まさに変化を開始しようとする状況を述べる場合と、コメントや指摘を指示する場合がある。後者は後文では「と認識している」「と主張した」などの述語表現がみられた。

- (62) KAT-TUNの元メンバー・田口淳之介と“内縁の妻”で元女優の小嶺麗奈が大麻所持で逮捕されて、1カ月が経過しようとする中、6月20日の『東スポ Web』が「小嶺麗奈ルート」で“お笑い界の超大物”が厚労省麻薬取締部(以下、麻取)のターゲットになっていると報じ、ネット上をざわつかせている。(日刊サイゾー20190622 1005)
- (63) 韓国政府は10日、兵器製造などに転用される恐れがある物品を韓国から違法輸出したとして摘発した事例が過去約4年間で156件あったと発表した。日本政府が輸出規制強化の理由を「不適切な事案があったため」とする中で摘発実績をアピールし、輸出管理を適切に行っていると主張した。(共同通信社 20190710 2023)
- (64) 男子テニスのファン・マルテン・デルポトロは21日、インスタグラムに動画を投稿し、ここ9カ月で二度目となる右膝蓋配骨の骨折に見舞われた試合が現役最後の試合か分からないとする中で、今後の見通しは不透明であるという認識を示した。
(Y!ニュース 20190622 1338)

「ことをうけ(て)」もまた、「なか」と隣接した表現である²⁾。

- (65) 高齢ドライバーによる交通事故が相次いでいることを受け、政府は18日、事故防止に向けた緊急対策を決定した。(読賣新聞 20190619)
- (66) 米南部テキサス州エルパソで22人が死亡するなど米国内で銃乱射事件が相次いでいることを受け、銃規制強化を求めるデモが17日、各地で始まった。(毎日新聞 20190818)

ここで、ナカ節が連体修飾構造をなして名詞にかかる「ナカでのN(底名詞)」を概観する。一般にナカ節の連体修飾の用法では次のような例が想起される。

- (67) a. クラスの中での僕の立場(「ノルウェイの森」)
b. プールの中での康子の様子(「青春の蹉跎」)

- c. 快樂の中でのように充実した無感覚（「飼育」）
- d. 豊かな時代の中での教育や家庭環境（「心の危機管理術」）
- e. 大きな官庁組織の中での職場移動（「タテ社会の人間関係」）
- f. 地域社会の中での中流の上（「適応の条件」）
- g. 戦火とその余燼の中での生活の苦しみ（「日本戦後名詩百家集」）

いずれの例も「の中での N」という名詞後接の用法だが、「の中でのように」のような連用修飾との合体した用法も散見される。実際の用例では動詞後接のケースも見られる。

- (68) この文書は、海外へ出張中の総長の代わりに、エコサマに出席する副総長に手渡されることになった。大勢が見るなかでのセレモニー、やはり緊張した。（「五体不満足」）
- (69) 両肩の不安を抱えた中で臨んだ今季は全日本でまさかの予選落ち。11年ぶりに日本代表の座を逃した。東京五輪まであと1年を切った中での再スタートだが、万全の状態、とはいかなかった。（デイリースポーツ 20190829 1241）
- (70) ASEAN 首脳会議は、南シナ海での中国漁船の当て逃げ事故をめぐり、フィリピン側の批判が続く中での開幕となった。（プライムオンライン 20190623 2134）

7. 「ソウシタナカ（デ）」「コンナナカ」にみる「ナカ」の可展的機能

前文で情報提示したのちに、後文をつなげる形式の典型としては「これをうけて」「これにともない」などの動詞句を援用したものがあがるが、「なか」を用いたものにも独自の表現効果が見られる。これはいったん言い切ったうえで、その連続性に焦点を当てようとする目論見がある。

- (71) 米国防総省は8日までに、ロシアや中国が勢力拡張を図る北極圏に関する戦略文書を公表した。その中で「中国は自らを『北極近接国家』と主張しているが、米国はそのような立場を認めない」と明記。（時事通信社 20190608 1440）
- (72) 慣れない環境のためか、悲鳴に近い声で泣き叫ぶ子もいた。そんななか、ボクは行儀よくひとつひとつの検査をまわり、担当していた先生方からは、お誉めの言葉までもらったそうだ。（「五体不満足」）
- (73) ビジネスの世界はいいかえれば競争の世界であり、社内でも競争、会社同士も競争である。そんな中で自分の欠点を素直に認めるということはなかなかできにくい。
(「心の危機管理術」)
- (74) セブンは値引き時間を探っていた。そんな中、深刻な人手不足で24時間営業を打ち切るコンビニが現れた。（讀賣新聞 20190521）
- (75) 長寿化や少子化の進展にともない、介護をしながら仕事をする人が増えています。そのな

かで、介護のために離職や転職、働き方を変えざるをえない人や、疲労やストレスにより仕事が思うように進まず、仕事と介護をうまく両立できていないと感じる人もいます。(明治安田総合研究所 20190622 0740)

- (76) 地元の夏祭りに顔を出すのは政治家の恒例行事の一つだ。特に当選回数が少ない若手議員は、次の選挙に向けて顔と名前を売るために、積極的に地元のイベントに参加することが多い。そうした中で、当選11回の大ベテラン議員が、夏祭りに足を運ぶ目的とは何なのか。石破氏は語った。(FNN.jp プライムオンライン 20190828 0630)
- (77) 日中関係は改善基調にあり、今月下旬には習近平国家主席が来日を予定している。そうした中での公船の動きには、中国が領有権の主張では「譲歩しない」との立場を明確にする狙いがある。(読売新聞 20190609)

「こうした中」は「そうした中」にくらべて、事態への密着性が高いようである。読者に喫緊の状況を提示する意図、思惑、趣意が見られる。

- (78) その結果、国が国民総生産の伸びを誇れば、企業は業界内のシェア拡大を自慢するという具合であった。こうしたなかで、日本経済は世界有数の実力を持つにいたり、企業は規模と経営基盤を拡大し強化することに成功した。(「日本列島改造論」)
- (79) いささか典型化しすぎたが、こういう状況に置かれているのが現代日本のビジネスマンではないだろうか。こんな中でストレスを感じないほうがむしろ珍しいくらいであろう。(「心の危機管理術」)
- (80) 韓国政府は23日、日本との軍事情報包括保護協定(GSOMIA)の破棄を決定。対立は貿易から防衛政策にも広がり、悪化に歯止めがかからない状況だ。こうした中、影響は輸出規制と直接関係のない分野で日韓双方に広がり始めている。

(ブルームバーグ 20190828 0600)

- (81) のように具体的な事態名詞「取り組み」などを添えるケースもある。

- (81) 公営企業を経営するに当たっては、中長期的な経営の基本計画を策定することが求められる。さらに改正法により都道府県は広域連携に努めなければならない。こうした取り組みの中で、住民に対して費用対効果が高く、安全なサービスを提供するためにはどうすればよいのかを真剣に考える必要がある。(読売新聞 20190619)

ナカに準ずる言い方として、「最中(さなか)(で)」「過程で」などがある。具体的な状況の発生する現場をあらわしている。「脇で」は、その一方で、といったニュアンスが含まれる。

- (82) 吉見教授は「60年安保時の学生運動では、その後の学生運動と違って東大生が中心にいた」と指摘。例えば、学生と警官隊が衝突するさなかで死亡した樺美智子さんや東大教養学部自治会委員長だった西部邁氏らだ。（読賣新聞 20190521）
- (83) 11日夜に香港の九龍半島側の警察署前で行われたデモで、警察側がデモ隊を排除する過程で、参加者の女性が右目にけがを負った。（朝日新聞 20190812）

8. 「～ナカニアッテ」という提示成分

ナカに前章でみた「～ニアッテ」が後接した「～ナカニアッテ」はナカ節の定型的な用法のひとつである³⁾。よりフォーマルな用法で発生する〈環境〉なり〈背景〉なりを明示する働きがあるが、ただし、次の(84)、(85)は〈XはYにある〉構文をなしており、対象外とされる。

- (84) こういう性質の男は克く北部の信州人の中にあって、理由も無しに怒ったような顔付をしているが、その実怒っているのでも何でも無い。（「破戒」）
- (85) 鳥小屋はテースコート裏のちょっとした公園の中にあって、二ワリから鳩から、孔雀、オウムにいたる様々な鳥がそこに入っていた。（「ノルウェイの森」）

ここで考察する「～ナカニアッテ」はこのような位置・所在関係を表すものではなく、範囲をあらわしたものである。

- (86) 明代は漢民族の国家主義的の反動の時代であり、科挙の試験制度はそうした中にあって、シナの文化遺産継承の一つのインスティテューションとして重要な役割を果たしたのである。（「マッテオリッチ伝」）

「ナカ」の代わりに「時代」「環境」などを用いた言い方も散見される。

- (87) 思うに、それよりむしろ難しいのは、とくに努力しなくても何とか生活ができるというような環境ではないだろうか。そんな環境にあって、質素な生活をしながら地道に勉強していくことは至難の業と思う。（「心の危機管理術」）
- (88) また経営者自身としても、いつの時代にあっても、「企業は人なり」と、人についての問題に真剣にとりくんできており、日本においてはこれが経営管理の重要な課題となっている。（「タテ社会の人間関係」）

9. ナカ節を代行する「今」「現在」「今日」の接続辞的機能

連体修飾節を受けながら、接続的機能辞としての役割を果たすものがある。「今」、「今日」、「現在」などを底名詞とする用法である。なかでも「今」は、接続辞として、現在進行中の事態を伝達する際によく用いられる。小説の地の文、報道文における諸例をあげる。

- (89) 鶴川が人々に好感を与える源をなしていたいかにも明朗なその容貌や、のびのびした体軀は、それが喪われた今、又しても私を人間の可視の部分に関する神秘的な思考へいざなった。(「金閣寺」)
- (90) 先生は笑い出した。あたかも時機の過ぎた今、もう熱心に説明する張合がないと云った風に。(「こころ」)
- (91) 私は初めて見知らぬ道を選んだことを後悔した。しかし既に死に向って出発してしまった今、引き返すのはいやであった。(「野火」)
- (92) オルモックが陥ちた今、あそこにいる人間が日本人である可能性はまずなかった。
(「野火」)
- (93) かつての「日本政治の安定神話」が崩れてしまった今、国民が政治家、経済人、官僚の尻を叩いて、日本の大転換を進めるべき時が来たようである。(「日本経済の飛躍的な発展」)
- (94) これはマカオ在のポルトガル商人が金を出しあって求めた品で、順調に貿易が進んでいる今、マカオ港から追い出されてはたまらないと彼らが縣心念しに結果であった。
(「マッテオリッチ伝」)
- (95) 一党独裁国家には、民主化を求める市民の声は理解できない。しかし、国際社会の目が厳しくなったいま、30年前の天安門事件のような武力制圧はもはやできない。しかも騒動は中国経済の要となる香港で起きている。(President online 20190619 0915)

「現在」「今日」もまた、「現在／今日～であるが」「現在／今日～中で」を意味する。注目標示的、事態導入を担う副詞句としての機能が顕著である⁴⁾。

- (96) 冷戦が終る少し前まで、アメリカは「世界の銀行」のつもりでいたが、貿易赤字に苦しむ現在、その余力はない。(「日本経済の飛躍的な発展」)
- (97) そして、事実、彼らの知る限り、満足に英語を話せる日本人は、例外的であるほど少ないという。国際的な仕事がますます増大する今日、このことは関係責任者にとって深刻な問題となっている。(「適応の条件」)

10. おわりに

一般に事態情報の導入として、状況・推移の提示は、時間的要素、空間的要素の提示とともに極めて重要な役割を果たす。同時に、時間表現はさまざまな時間節、あるいは時点語彙をめぐらしながら、大局的な時間幅をあらわすと同時に個々の現象的な時点生起をあらわし、事態・事象の変遷、経緯を記述伝達するのに欠かせない。たとえば、次の記述では「時代には」という大局的な把握と「11日」という現実の生起する時点とを対照させている。

(98) 麻生金融相は当初、100歳まで生きる時代には人生設計を考え直す必要がある、といった説明をしていたが、11日には報告書を受け取らないと表明した。(朝日新聞 20190612)

時間節、時間表現はこうした世の中の動きを的確にとらえるための不可欠な認識手段であり、それだけに体系的な把握の努力もまた重要なものと言えよう。

本稿では時間節のひとつである「ナカ」が範囲をあらわしながら、現前（眼前）の状況を表しながら、情報提供、問題提起を意図する様相を見てきた。その用法は事態の進展、展開を予測し、対応する際の重要なきっかけ、ないし目安となる。

なお「ナカヲ」については十分に検証ができなかったが、例えば次のような例である。

(99) 虹口地区だけでも女の一人歩きは気づかわれている中を、パッと人目を惹く美しい彼女が、よくフランス租界のはずれまで来たものだと感心させられた。(武田泰淳「審判」)

ここには「気づかわれているにもかかわらず、その中を」のように、逆接の「ノニ」「ニモカカラズ」も含意されており、「ナカ」の意味の重層性がうかがわれる。

ナカ節はトコロ節とともに、現場の状況なり背景なりをリアルタイム的に的確に再現するうえで、非常に重要な働きをになっている。日本語の複文構文のなかでも展開的な要素が顕著であり、今後、さまざまな角度からの考察がもとめられる。「上」「前」「後」といった位置詞を底名詞（被修飾名詞）とする発想は、深層心理的にも大きな関心が寄せられる。

本稿ではナカ節に前接する動詞成分について特徴を観察した。ナカ節による情報導入機能とその考察は、テキスト構成、理解についても重要な視点を提供している。

注

- 1) トコロ節との相関については田中（2004）を参照。ただし、「トコロ」を用いた場合は、「なか」の状況性にくらべて焦点化が強い印象を受ける。
- 2) 田中（2010）では「ニツレテ」などの漸進性をあらわす後置詞に隣接する言い方として、「ナカ」をはじめとする複数の接続辞について言及している。

3) 「にあって」の用法については藤田(2009)、田中(2017)などを参照。

4) こうした「今」「現在」「この頃」などの用法と表現的特徴については、スピーチ、講演、演説などでの使用も含めて、さらに分析を進める必要がある。

参考文献

- グループ・ジャマシイ編(1998)『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 佐伯暁子(2013)「現代語における状況を表す「～(の)中を」「～(の)中φ」について」『日本語文法』13-2 54-70
- 田中寛(2004)「トコロ節における意味の連鎖性」、同『日本語複文表現の諸相 接続と叙述の構造』所収 434-490 白帝社
- 田中寛(2010a)「動詞テ形後置詞の分類と意味機能—機能的認定と様態的意味の諸相」、同『複合辞からみたいな日本語文法の研究』所収 25-75 ひつじ書房
- 田中寛(2010b)「漸進性と相関関係を表す後置詞—「につれて」「にしたがって」などをめぐって」、同『複合辞からみた日本語文法の研究』所収 81-114 ひつじ書房
- 田中寛(2018)「「とあって」と「にあって」——「ある」の後置詞化と指示的特性——」、『語学教育研究論叢』35号 1-24 大東文化大学語学教育研究所
- 日本語記述文法研究会(2008)『現代日本語文法⑥第11部複文』くろしお出版
- 藤田保幸(2009)「複合辞「～とあって」について」『言語文化学研究』日本語日本文学編第2号 大阪府立大学人間社会学部言語文化学科
- 町田健(2009)『変わる日本語その感性』青灯社
- 森田良行(2019)『時間をあらかわす基礎日本語辞典』角川ソフィア文庫

用例出典

北京日本学研究中心編『日中対訳コーパス』(第二版、2002-2003)。本書では書名のみ挙げた。出典明記のないものは作例。新聞各紙:例えば(読賣新聞20120225)は2012年2月25日付けをあらわし、デジタル版であれば(共同通信社20190911 1237)は2019年9月11日12時37分発信をしめす。

(2019年9月26日受理)